

駿河ほねほね団報告

本多佐おり



標本さわり 2026

2026年8月16日、ふじのくに地球環境史ミュージアムにおいて、駿河ほねほね団が講師を務める二つのイベントを開催しました。

「標本さわり 2026」では、普段はなかなか手に触れる機会のない動物の毛皮や骨、レプリカなどを展示しました。オオカミ、ツキノワグマ、ハリネズミ、ホッキョクグマなどの毛皮をはじめ、ツキノワグマの全身骨格を実際に触って観察できるようにし、来場者には団員が標本の特徴や動物の体のつくりについて解説しました。

また、標本を観察するだけでなく、実際に手を動かして楽しめる「骨パズル」も用意しました。アライグマの頭骨と下顎骨に歯をはめるパズル、豚足の指の骨を組み立てるパズル、3Dプリンターで実物より大きく製作したニホンジカの手根骨パズルなどを通して、骨の形や位置関係を体験的に学べる展示としました。一方で、ナマケモノの仮剥製など、触らずに観察する標本も展示しました。

この日は「ふじのくに地球環境史ミュージアム」から岡部晋也主任研究員も参加し、モグラの解剖を実践しました。解剖の様子を間近で観察できるコーナーは大変人気があり、常に多くの来場者が集まる盛況ぶりとなりました。来場者数は284人で、前回の開催より多くの人に立ち寄っていただくことができました。

実習室では「豚足の骨格標本を作ろう」を開催しました。小学3年生以上を対象に、身近な食材である豚足を材料として、骨格標本作りを体験してもらう企画です。まずスライドを使い、



豚足で骨格標本を作ろう

ブタとイノシシの違いや偶蹄類の特徴を解説した後、実物の豚足を観察し、作業工程を説明してから標本製作に入りました。

作業では、豚足をあらかじめ半分に割り、骨が混ざらないよう紙コップを使って指一本ごとに分けながら除肉を進めました。作業が難しい場合には団員が包丁で切り込みを入れるなどしてサポートしました。除肉後は次亜塩素酸ナトリウムに浸けてさらに細かな肉を落とし、水洗いを行いました。時間内の完成が難しい参加者には、団員と学芸員実習の学生がサポートしました。

今回の製作にあたっては、事前に団員有志が実際の作業時間を確認し、小学生が限られた時間内で完成できるか検討を重ねました。その結果、参加者19名全員が無事に作業を終え、きれいになった骨を持ち帰ることができました。持ち帰り用のネットに加え、さらに洗浄したい場合のために、使用方法を記載したポリドントも配布しました。

乾燥させた骨をグルーガンや木工用ボンドで接着して骨格標本に仕上げる方法を説明し、完成品を実際に見てもらいました。また、より手軽に楽しめる方法として、紙粘土を使った飾り方も紹介しました。

標本に「触れる」「観察する」「組み立てる」「自分で作る」というさまざまな体験を通して、動物の体のつくりや標本の面白さに触れてもらう一日となりました。駿河ほねほね団では、今後も標本を身近に感じてもらえる活動を続けていきたいです。